

## 第9回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第9回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日時：令和4年1月17日（月）午前10時00分～午後0時1分
3. 場所：長坂総合支所2階会議室
4. 出席者：  
（委員）清水一彦・川村めぐみ・仲沢仁・清水精・清水永一・平井高志・芝川又和・小澤浩・金谷裕司・望月智恵子・矢崎茂男・小池雅美・細川英雄・高木ひとみ  
（事務局）加藤教育部長・佐野参事・平井教育総務課長・田中教育指導監・天池総務担当リーダー・安部施設担当リーダー・原学校教育担当リーダー・柳澤総務担当
5. 議事
  - （1）第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップの結果について（資料①・②）
  - （2）第3回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップについて（資料③）
  - （3）答申案の作成に向けた骨子（案）について（資料④）
  - （4）その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：9人
8. 議事録署名委員：小澤浩委員、金谷裕司委員

### 議 題

- （1）第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップの結果について  
（会 長） それでは議事に入る。事務局に説明を求める。  
  
（事務局） （事務局より資料を用いて説明）  
  
（会 長） 参加された委員よりワークショップ当日の雰囲気について共有していただきたい。  
  
（委 員） 今回8箇所で開催されたが、私は4箇所に参加した。全体の印象として、垂直統合についてはどういうものなのか分からないという意見が多く、意見交換よりも質問が中心であった。水平統合に関しては、前回審議会の資料が細かすぎて分からないという反省をもとに資料を

作り直したものの、やはり分かりづらかったようであった。意見として、今回の審議会というよりは、過去の統廃合の経緯に基づく意見交換が多かったと感じた。今回の資料に優先度の順位が出ているが、組み合わせを示さないワークショップであったので、前提条件がついた意見であるということ踏まえなければいけないと感じた。

実際に議論の様子を伺うと、当事者の保護者世代と地域の方々で課題認識にギャップがあった。例えば、移住してきた保護者は「学校を大きくすることには反対」、中学校の保護者は「統合となると自分の地域からは学校はなくなり、学校へ通うのにスクールバスでは限界があるため、両親のどちらかが仕事を調整し送迎をしなくてはならず、自分の足で通える範囲に学校があることが大切である」、「デメリットに人間関係が固定化されるとあるが、ずっと地元の学校に通い地元で暮らしてきた自身の経験からそのような事はないと感じている」等の意見があった。

今回、武川地区のPTAの方から、保護者向けアンケートが資料として配布された。「今回のワークショップに入るにあたっての前提条件として、甲陵中学校がなぜ今回の検討から外れているのか。財政の問題から考えるのであれば、6割の生徒が北杜市外から通っているが、これを北杜市が負担していることについて説明がほしい。」といった内容が含まれていた。また、小淵沢町の第1回ワークショップで、資料の将来推計について、小淵沢のグラndeをなぜ外すのかという意見が出ていた。審議会では初めから外して考えていたので、これらの説明ができることが大事だと感じた。

(会 長) 審議会の基本的な方向性は、北杜市の将来の教育の在り方をしっかり提示し、それを見据えた上で子ども達の教育と地域性を基本に適正配置を考えることとしている。適正配置の具体的な組み合わせについては、今回のワークショップの結果を受けて、一定のルールを設けた中で、考え得る組み合わせが提示された。この組み合わせが審議会の方針として繋がるかどうかは、別の問題である。本日は、この結果について意見交換をしていきたい。

(委 員) PTA代表として個人的な意見は控えてきたが、PTA代表として意見を述べるのであれば、この結果が大きいと感じている。それは参加者の半数にPTAが参加されていたからである。しかしながら、まだ足りないと感じている部分もあった。それは、大泉のワークショップでは垂直統合をよく理解されている印象であった。資料の訂正だが、資料①の6ページのアンケート結果に泉小・中と記載があるが、正しくは泉小のアンケート結果である。ワークショップでは垂直統合が9名と多かったが、アンケート結果では水平統合の方が多かった。関連して、武川のワークショップでは垂直統合より水平統合の方が多かったようだが、武川小のアンケートでは垂

直統合と水平統合が同じくらいになっている。これらを踏まえると、垂直統合が理解されていないことや全員にアンケートを取ることで情報不足が改善されるのではないかと思う。PTAとしてはこれらの声も大事にしてほしい。

(事務局) 資料①6 ページの泉小・中学校に関しては、訂正させていただく。

(委員) 長坂に関しては学校でアンケートを取っていないが、保護者の方に話を伺って見たところ、「市が決めることだから決まってしまうだろうがない」という意見もあり、意見が反映される場所が無いと思われている。また、「水平統合は経験済みなので理解ができるが、垂直統合は想像ができないので理解ができない」とも仰っており、意見を求められても話せないのではないかと思った。具体的な例があれば想像しやすいと思うが、2時間ある議論の場で半分が説明になってしまったことについては、工夫できることもあったのではないかと感じた。

(委員) 長坂に参加したが、全体説明が総花的に垂直統合・水平統合のメリット・デメリットが説明されていた。私がワークショップに参加しても、この説明では何も判断できないという印象を持った。情報が表面的なため、教育の中身まで深く議論することができない。異年齢の交流にしても「中学生・小学生がどうやって一緒に授業するのか」という疑問が出るなど、議論がずれており、参加者が理解されないまま決が採られており、ワークショップの進め方に問題があったと理解している。

(委員) 学校教員の立場から、各ワークショップに参加した。よく話題に出ていたのがICTの活用についてである。第1回ワークショップでは触れられていなかったが、「ICTの活用で授業はできるのか」といった質問があった。現状他校と交流授業で実施はしているが、日常的に実施しているわけではなくイベント的に実施している。実施にあたりそれなりの準備が必要であるため、毎日ICTで合同授業を行うのは極めて難しいという事実を伝えた。また、白州では「学校教育現場にてICTを活用した授業を日常的に行うことの物理的負担を考えると現実的ではない」と意見があった。1人1台タブレットは配布されているが、だからといってオンラインでも解決できるということではないと思う。

(委員) ワークショップでは、時間をかけて説明をしていた。その場で説明されただけでは中々理解できないという気持ちも分かるが、どのようにすれば良いのかとなると厳しいものがある。説明を聞いた上で、自分なりの考えを述べることは全員ができることではない。PTAの役員をやっている保護

者はワークショップのような話を聞く機会があるが、そうでない方はそういった話も聞かずにもう決まった事だと思ってしまう人もいる。だからといって、全ての人に垂直統合・水平統合のメリット・デメリットを説明し、判断をしてもらうことが本当に可能なのかとも思う。なるべく多くの方が、知る機会を持つことや興味を持ってもらえるように促すことに時間をかけて行くと同時に、少子化待ったなしの状況であるので、どこで線引きをするかも考えるべきではないかと思う。

(委員) 武川のワークショップに参加した。他の委員の言う通りどこまで情報を提供する事ができるか、少ない情報の中で考えてもらう事の難しさがあつたと思う。武川では「最終的に教育環境をどうやって向上させていくのか」という意見に対し、その為にはある程度の規模がないと難しいという意見もあつた。小中合わせても人数が少ない武川では、将来、葦崎や甲府に子どもたちが行ってしまうのではないかという課題も抱えている。学校の教育水準を向上するにはどうすれば良いかということと一緒に進めてもらいたい。

(会長) 資料①から分かることは、垂直と水平を組み合わせることは難しいと市民の方は思っている。水平は水平、垂直は垂直でなければならないという事も、ここで表している。意見をまとめると、水平、垂直それぞれの選択肢が理解されつつあると感じる。私個人的には、小学校は最後に統合すべきだと思う。他で適正配置の委員をした時に、100年以上の歴史を持つ小学校であつたが、入学者0人が2～3年続いたら統合という経験もあつた。そこまで待つことが良いか分からないが、保護者や地域の理解を得るにはそこまでいかないと小学校の統合は難しい。

(委員) 各地区の結果を見ても意見が半々に分かれていることが多い印象である。しかし、よくわからないという声が多いので、説明していくことで、納得できるか・できないかまで持っていく必要があると思つた。

(委員) 統合して遠いところに通うよりかは、地域に学校を残してほしいという希望はある。個人の意見はあるが、最終的には子どもたちのことを最優先にして決めて頂きたい。

(委員) 第2回ワークショップで出席者の想いに温度差があると感じた。高根は最近小学校の統合があり、小学校が複数あるという特徴がある。このことが、水平統合への意見が多くなつたことに繋がつたと個人的に感じた。また、統合にあたり通学時間を懸念する声もあつた。

- (委員) 須玉のワークショップに参加したが、水平統合に関しては経験があるため分かる、納得できるという意見が多いのではないかと思った。
- (委員) 明野では、感触として垂直統合について否定的な考え方が多く、少子化によって生徒数が減っていくので、水平統合2校が良いという意見が見られた。また、生活圏内で統合したほうがよい、スクールバスを上手く運行してほしいという意見が一番多くあった。
- (委員) 何年か前にもこういったことを話し合われて頓挫した経緯があった。このような会議に関わっていない普通の方は、自分の子どものことで精一杯であり、北杜市全体の教育について考える機会はないと思う。本当に真剣に考えている方は、お金も労力も使って県外にでも通わせると思う。北杜市が決めたことに従うしかないと考えている方がほとんどだと感じている。白州は人数が少ない状況である。少ないながらも良い環境で教育を受けることができていると思うが、良い環境だけが人間を育てるわけではなく、何事にもメリット・デメリットがあると思うので、親も子どもも我慢しないといけない部分があると思う。少ない人数も良いが、中学校は成長期であるので大人数で切磋琢磨して育てて欲しいと思っている。何度もこのような事をやっても進んでいかないとと思うので、北杜市でしっかりとした教育方針を掲げた上で、個人がどの教育を受けるのか選択することになれば良いと思う。財政的、人口的に考えても希望を全て盛り込めるわけではなく、もう話し合っている場合でもないという気がする。
- (会長) 北杜市でなければ、各旧町村での子どもの減少傾向は危機的な状況だったと考えられる。北杜市という一つの行政主体となり、北杜市の中にある小中学校であるので、北杜市の教育という観点からすれば、子どもの減少を食い止めることが出来る。そのためにこのような審議会が設置されて検討されている。北杜市という大きな括りの中で、最適とまでは言わないが、よりベターな配置を考えていきたい。  
全ての委員より意見を伺ったが、情報提供の大切さや垂直統合・水平統合の理解されていないことに対しての説明を丁寧にするのは共通して出た意見だと思う。
- (事務局) 今回のワークショップを通じて説明した垂直統合と水平統合についてであるが、水平統合についてはイメージしやすいが垂直統合になるとどういった教育環境になるのかイメージしにくいといった中で、審議会においてワークショップ参加者に具体的なイメージを持ってもらえるような資料作りを進めてきた。事務局の見解としては、参加者全員が深く理解していただいたかという疑問が残るところである。2回のワークショップを開

催してきたが、理解してもらえてないことに関しては課題と認識しているので、第3回ワークショップに向けてイメージしやすい資料作りと丁寧な説明をしていきたいと考えている。また、今回ワークショップに参加いただいたのは各地域団体の代表の方々であるものの、団体の意見を集約して参加されているわけではない。委員の皆様からのご意見あったが、今後はワークショップに参加されていない方々のご意見を聞いていくことも必要と考えている。年度内に答申を頂くようお願いしているが、その後の計画作りの過程において、統合案の説明をする機会を改めて設けていきながら、できるだけ多くの人の意見や理解を得ながら進めていきたい。

(会 長) 事務局から話があったように、審議会の答申でいくつかの選択肢を提示することとなるが、それがすぐに実行されるとは誰も考えていないと思う。答申を受けて、教育委員会で議論し、行政のルールに乗せていく中で、市民への説明なども当然入ってくるので、我々は走り出す一步のルールまでを審議会としてやっていければ良いと思っている。今日の資料を見ても、他地域と垂直と水平の統合を同時にするという事は、誰もイメージが出来ないと思う。中学校においては、垂直があるのか、水平があるのかという辺でまとめてはどうか。組み合わせ案が複雑になってしまう要因ではないだろうかと思うが、他の委員はいかがか。

(委 員) ワーキンググループで組み合わせ案が出たわけではないが、水平1～2校案が出た時に、水平3～5校という意見が出るかもしれないということで、資料としては組み合わせ案という位置付けにした。資料の不足点として、ICTの活用の箇所が挙げられると思う。垂直統合を考えるにあたりICTの活用について引っかかる方がいたと思う。なぜならコロナ禍におけるICTの活用のイメージが大きく、慌てて整備したことで不備があったことから、日常的に活用する事へのイメージが出来なかったのではないかと考える。教育におけるICTの活用は授業に限定することなく、日常的に活用することで教員が個々の把握をしやすくなり、利用しない手はないと個人的には思っている。ICTの活用に関して踏み込めていなかったことが反省点と考えている。

本日欠席されている委員より質問を預かっており、社会性を育む上でクラス替えができない事を課題として挙げているが、教育学的に実証されていない。具体的に北杜市においてクラス替えが出来ないことで生じる問題があるならば、情報提示をしてほしいとのことである。

(委 員) 学校運営においてクラス替えは極めて重要である。北杜市の小学校は年々子どもが減ってきていることで単級の学年が増えてきている。数年後にはほとんどの学校が単級になる。問題は、子ども達は色々な個性を持ってお

り、一つのクラスの中で協調性を補って成長していくが、人間であるので相性が合わない場合も出てくる。そのような様々な要素を考慮し、問題を解決する方法の一つとしてクラス替えがあると思う。小学校では2年に1回、中学校では1年に1回クラス替えを行っている理由はそういう事である。小学校に入学する時には、保育園や幼稚園等から情報を貰ってクラスを編成する。都市部の学校では最初の2カ月間はクラスを作らず生活し、子どもの様子を見た後に適切なクラスを編成するところもあるほどで、クラス替えは重要な作業と考えている。

(委員) 市内中学校には、現時点で全くクラス替えが無い学校もある。友人との人間関係はやはり難しく、現代の子は他人と上手く関われない子が多くなっていると感じる。一回関係がこじれると一緒に活動したくない、避けたいと言う生徒もいる。大人はなぜ上手くやれないのかと思うかもしれないが、相性が合わないこともある。それは教員が皆で仲良くしようと言ったところで、その子ども達が持っているものであるのも、上手くいかない。もし仮にクラス替えが出来るのであれば、生徒は楽しみにしていて来年こそは頑張ろうと思ったり、希望を持ったりすることができる。中学校でクラス替えが無い学校の生徒は、小学校でもクラス替えが無かった場合が多く、更には保育園から中学校までずっと一緒にいる子もいて、そうした楽しみや希望がない。高校生になって新しい世界が広がるまで、10年以上も不満を持ったまま過ごす生徒がいる。こうしたことが原因で不登校になっている生徒もいると聞いているので、クラス替えが出来ることは子どもにとってありがたいことなのではないかと思う。

(委員) 甲陵中学校では現在単級で運営しているが、課題を抱えながらも単級で運営するのにあたって工夫している点などはあるか。

(委員) 甲陵中学校は様々な小学校から入学して来るので、一つの小学校から多くても3人程度のため、気持ちを新たに入学してくる生徒が多い印象である。一クラス40人学級であるが、基本2つに分けて少人数で授業をやっているため、一日中40人と一緒にいるわけではない。半年おきでメンバーを変えたり、教科ごとでメンバーを変えたりしている。また、高校に進学した際には、新たに入学してくる生徒もおり、1学年4クラスとなるので、中学校の時に人間関係に不満を持っていた生徒も、気持ちを新たに過ごしているのではないかと思っている。少人数体制は学習効果向上の観点と人間関係の固定化をしない観点から実施している。

(会長) 第3回ワークショップでは、ICT教育の方法について説明してもらいたいと思う。また、この後説明があると思うが、骨子案にある水平と垂直の

組み合わせについて、北杜市全体で見れば、水平垂直の組み合わせは考えられるが、1つの学区で水平垂直の組み合わせがあるというのはイメージできず、相当難しい改革になると思うので、その辺もしっかりと伝えてもらいたい。

(2) 第3回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップについて

(3) 答申案の作成に向けた骨子(案)について

(会 長) 次回ワークショップと骨子案について、事務局に説明を求める。

(事務局) (事務局より資料を用いて説明)

(会 長) 骨子案をみると北杜市の教育の考え方が不足していると思う。教育の哲学が入っていることが重要なので、検討していただきたいと思う。

(委 員) 骨子案について、ヒト・モノ・カネについてのみ記載されており、社会的背景や教育的内実について触れられていない。例えば、3ページの審議会の経過について、第8回審議会にてこれまでの経緯及び審議会におけるこれまでの議論と方向性を示し、今後どう議論していくのか方向性を確認したことで、私は議論を再出発したと理解している。しかし、ここでは全く触れられていない。これでは答申は何を目指して行うのか見えてこない。事務局の考えとしては、これをたたき台にして議論してほしいという趣旨だと思うが、少なくとも前回審議会を確認した、これまでの経緯及び議論と方向性にもう一度立ち返って組み立ててほしいと思う。また先程の学級が2つ以上なければいけないといった意見に関して、全体の総意となっているように見受けられたが、本来の少人数教育ということから考えると、2つなければ人間関係が固定化されてしまうみたいな考えは、議論が本末転倒してしまうと思う。教育の内実についてもっと議論し、方向性を考えなければならない。

(事務局) 今ご意見いただいた件に関して、教育の考え方については骨子案に盛り込むべき内容と認識している。事務局としては、具体的には資料の23ページに記載したいと考えている。次回審議会ではご議論いただきたいと思う。

(委 員) 骨子案がヒト・モノ・カネの資料から始まっていることに疑問を感じる。まず社会的背景・教育的内実があり、その後にヒト・モノ・カネの問題が付随すると考えるべきではないか。前回審議会で議論があったと思うが、新行政改革大綱案の様にお金のことが前提としてこの審議会が進んでしまえば、この審議会の存在意義がなくなると思う。



- (委員) 今回資料に具体的な地域名が出てきたが、垂直統合が決まった地域、水平統合が決まった地域の人たちは、必ずその学校に通わないといけないのか。他の学校に通う選択肢があるのかも、考えていかなければいけないと思った。
- (会長) 今も区域外就学という制度があるので、制度的には保障されている。
- (委員) 学校には、発達障害の子どもたちも多くいると思う。支援学校にはなかなか入りにくく、普通の学校に通うが、適応するのに苦労する事が多い。発達障害の子どもが過ごしやすい環境についても考えていかないといけないのではないかと思う。
- (委員) 本日欠席の委員から、事務局あてにこの審議会についての要望が提出されているので、それは公開されるべきではないかと思う。
- (事務局) 内容としては、先ほど委員よりお話いただいたクラス替えしたほうがよい具体的な理由について、骨子案の中に北杜市の教育方針を盛り込むことについて意見を頂いている。骨子案については中身に踏み込んだ質問もあったので、今回委員の皆様から頂いた意見も踏まえ、案を作成していきたいと思う。また、答申の中身については一番大切な部分なので、委員の皆様が意見を表明できるような時間的な余裕を確保してほしいと要望があった。
- (会長) 北杜市の教育の将来を占う重要な審議会であるので、子どもや地域のために答申案を作成していきたい。前回審議会でも議論したが、答申案と行政改革大綱案は全く別物であり関係性はないという前提で、我々は教育のために進めていきたい。  
以上で、議事を終了する。

終了